

事前質問説明資料

平成24年10月17日
福島第二原子力発電所



質問1.

廃棄物処理建屋のランドリーの処理について説明のこと。

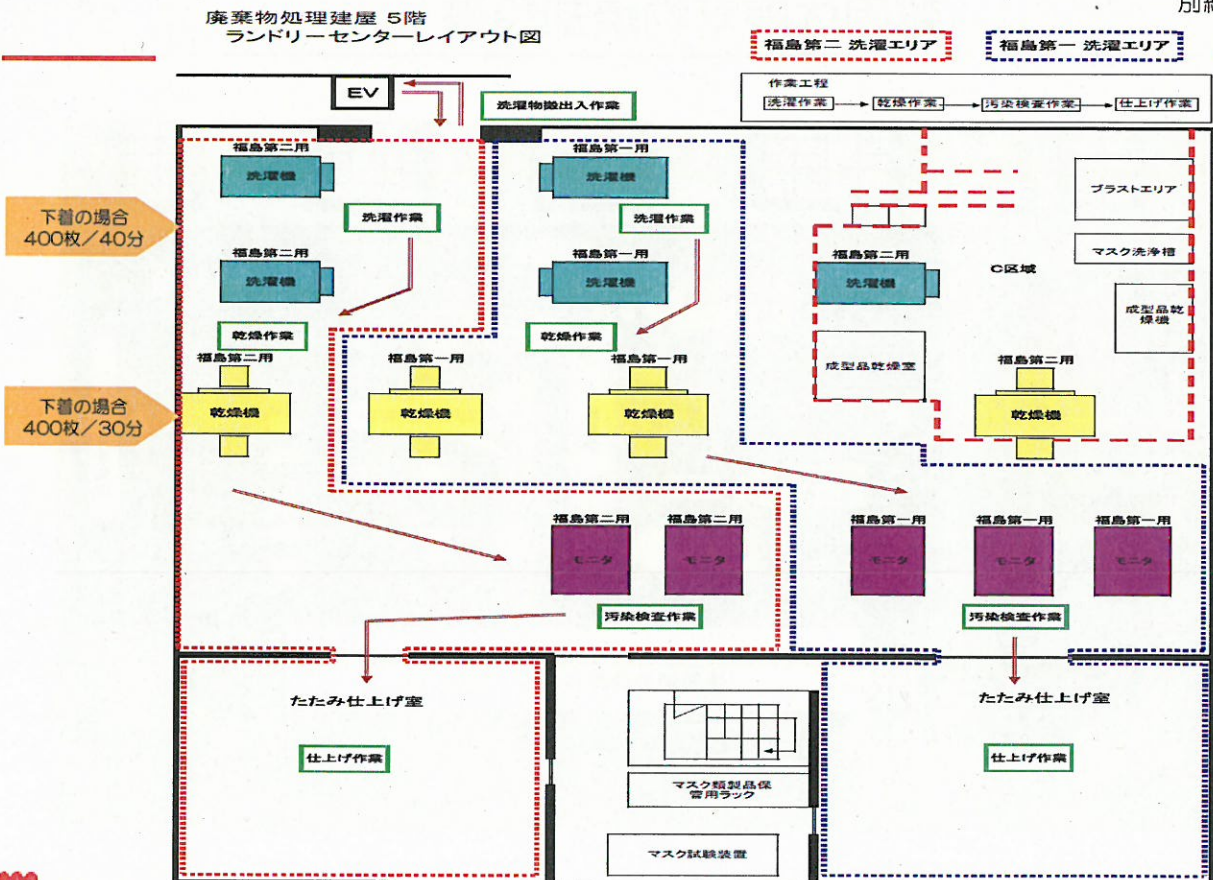
回答1. 別紙—1 参照



東京電力

転載禁止 東京電力株式会社

別紙—1



東京電力

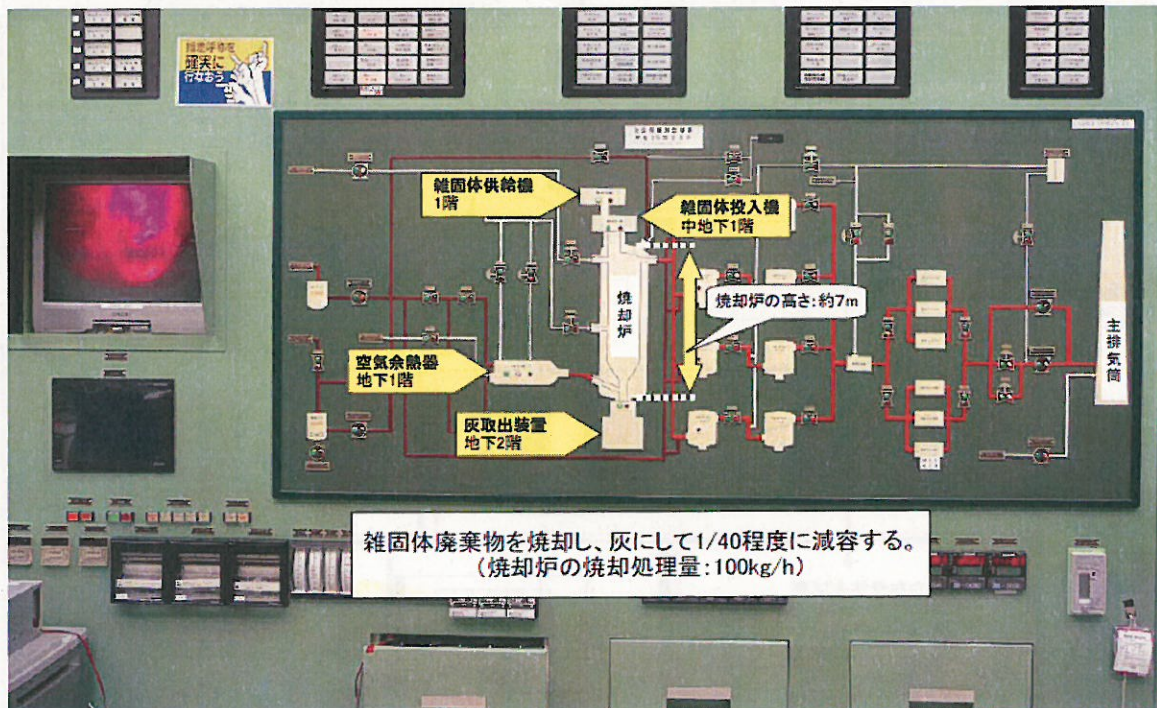
質問2.

廃棄物処理建屋の焼却炉の設備について説明のこと。

回答2. 別紙—2参照

雑固体廃棄物焼却設備

別紙—2



質問3.

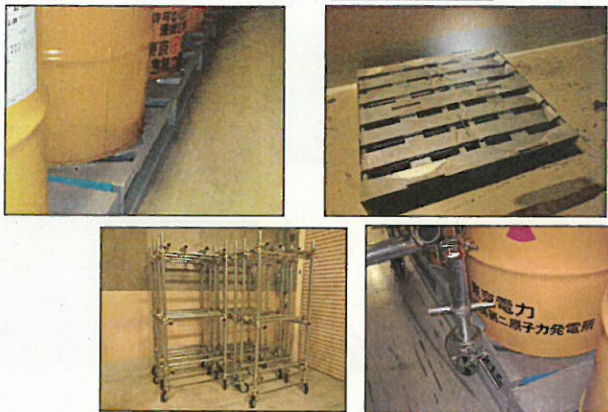
低レベル廃棄物貯蔵庫の保管状況、地震被害について説明のこと。

回答3. 別紙—3参照

震災後の固体廃棄物貯蔵庫の状況 1 / 3

別紙—3

パレット座屈及び転倒防止状況



- ・座屈パレット転倒防止暫定措置（パレット治具の装着）
- ・ドラム缶移動に併せ、座屈パレットの交換ならびに重量に応じた積み段配置調整を実施（軽量：上段，重量：下段）
- ・最上段最外周ドラム缶固縛，最上段パレット連結（新潟県中越沖地震を踏まえた対策として震災前より実施）
- ・H24.4.25 座屈したパレット交換完了（87パレット）



地下階床面からの浸水



固体廃棄物貯蔵庫内の汚染状況

福島第一の事故の影響により汚染（H24.3.14～）

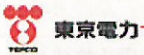


H24.6.29除染完了

震災後の固体廃棄物貯蔵庫の状況 2/3

【震災直後】

	固体廃棄物貯蔵庫 ドラム缶保管本数	保管容量
H23.3.11 (地震発生時)	17,310本	32,000本
H24.9.30現在	17,594本	



震災後の固体廃棄物貯蔵庫の状況 3/3

【現在】

コンテナ
(全数屋外にてピラミッド上に保管)

シャッター改修実施



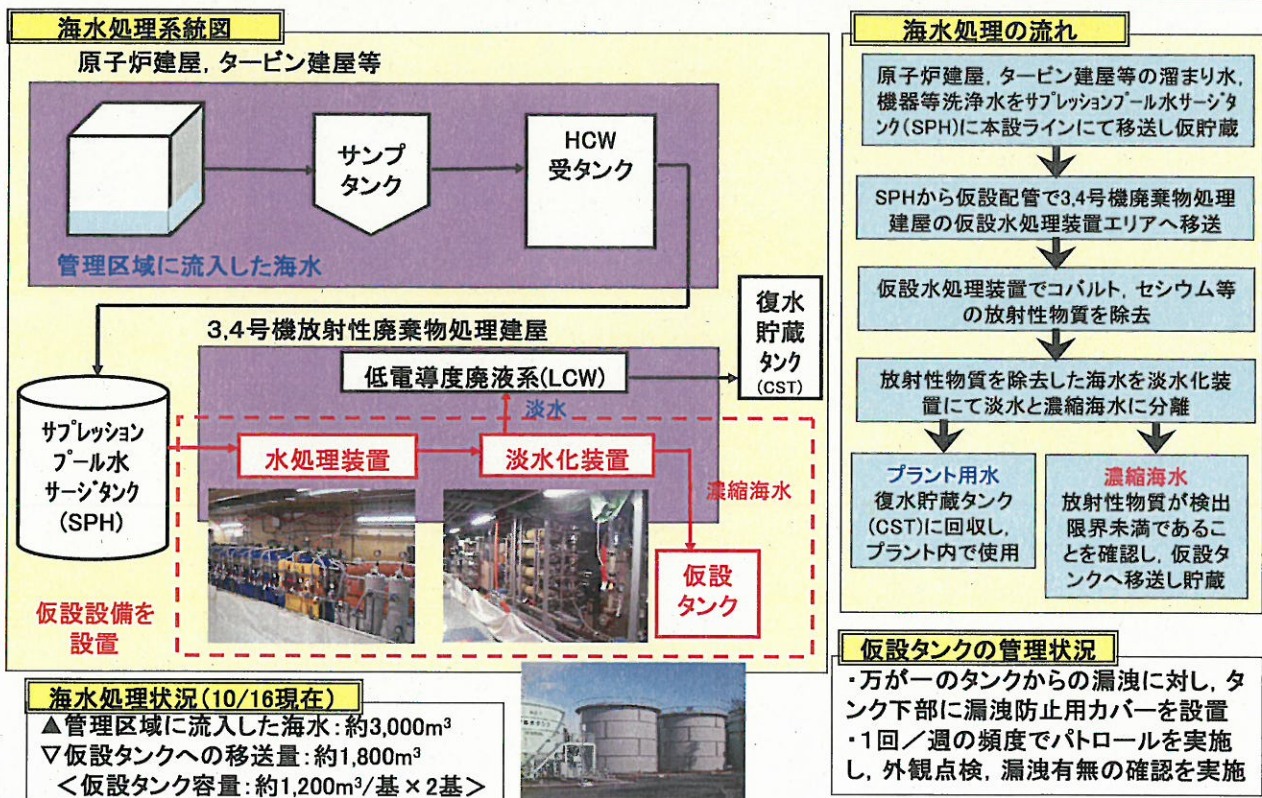
質問4.

地震時の津波によるタービン建屋流入水（海水）の処理状況について説明のこと。

回答4. 別紙—4参照

津波による流入水の処理状況

別紙—4



質問5.

原子炉建屋、タービン建屋における地下水位の管理状況及び流入する地下水の処理状況について説明のこと。

回答5.

- ・ 建屋廻りの地下水は、サブドレンピットに集水される。
- ・ サブドレンピット内の水位がポンプ起動レベル（建屋基礎マット下端）に達するとピットに設置された排水ポンプにより地下水は排出される。
- ・ 排出された地下水は、地上の構内排水路を経て海へ放流される。従って、建屋廻りの地下水位は、建屋基礎マット下端位置以下に保たれている。

以上より、地下外壁から建屋内への地下水の流入はありません。

質問6.

構内で発生する余剰水の処理状況について説明のこと。

回答6. 別紙—6参照

プラント余剰水の放出管理

別紙—6

震災前後において、放出管理プロセスの変更はない。

1. 放出状況(放出廃液量及び放出放射エネルギー)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度 ^{※3}
放出廃液量(m ³)	13,928	16,612	3,587
γ線放出核種放射エネルギー(Bq)	ND	ND	ND
放出管理目標値 ^{※1}	1.4 × 10 ¹¹ Bq/年 (放射性液体廃棄物(トリウム除く))		
トリウム放射エネルギー(Bq)	1.6 × 10 ¹²	2.3 × 10 ¹²	3.8 × 10 ¹¹
放出管理の基準値 ^{※1}	1.4 × 10 ¹³ Bq/年 (トリウム)		
放水口トリウム濃度(Bq/cm ³)	9.8 × 10 ⁻⁴	1.4 × 10 ⁻¹	6.6 × 10 ⁻²
周辺監視区域外の水中濃度限度 ^{※2}	6.0 × 10 ¹ Bq/cm ³ (トリウム)		

※1 原子炉施設保安規定第88条

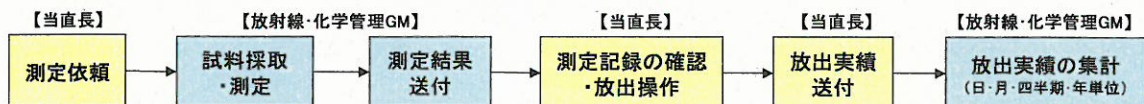
※2 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則に基づく線量限度等を定める告示

※3 平成24年6月末現在

上記データは、「原子力発電所における気体・液体廃棄物等の放出実績の報告について(通知)」(20県安第2328号 平成20年12月8日付)に基づき、報告済み

2. 放出管理

(1) 放出管理方法



(2) 放出時における放射能測定(γ線放出核種, トリウム)

① 放出の都度測定 : γ線放出核種

② 月単位の測定 : トリウム濃度

現場で測定器(Ge半導体スペクトロメータ)を確認

質問7.

平成24年10月18日から開始される環境モニタリングデータのホームページ公開について説明のこと。

回答7. 別紙一7参照

環境モニタリングデータのホームページ公開について 1/4

別紙一7

◆公開時期

平成24年10月18日（木）14：00以降

◆公開データ

モニタリングポスト、排気筒モニタ、放水口モニタ

※各データは毎分10分値をリアルタイムで掲載

URL（福島第二）：<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html>

次項以降にHP掲載イメージを示します。

トップページ > 福島第二原子力発電所モニタリングポスト計測状況

福島第二原子力発電所構内でのモニタリングポスト計測状況

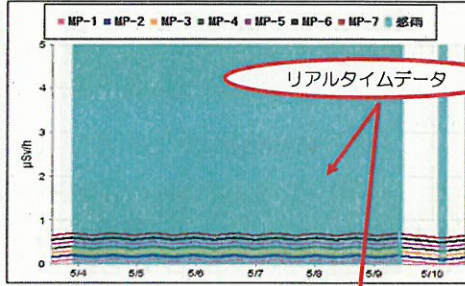
福島第二原子力発電所構内のモニタリングポスト(MP1~MP7)において測定している空気中の放射線量の測定結果をお知らせいたします。

計測地点



拡大して表示する

計測グラフ



拡大して表示する

○計測値(2012/3/14 0:00)

MP-1	MP-2	MP-3	MP-4	MP-5	MP-6	MP-7	風向	風速	降雨
0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	北東	7.1	有

※風速0.5m/s未満の場合「CALM」(静穏)、風向を「-」と表記。

お知らせ

お知らせ欄

- ◆過去の計測結果(平成24年9月○日以降)
- ◆過去の計測結果(平成24年9月○日以前)



転載禁止 東京電力株式会社

福島第二原子力発電所構内での排気筒モニタ計測状況

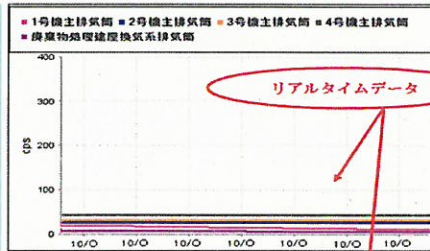
福島第二原子力発電所構内の排気筒モニタにおいて測定している、排気筒から環境へ放出される排気中の放射線量の測定結果をお知らせいたします。

計測地点



拡大して表示する

計測グラフ



拡大して表示する

○計測値(2012/0/0 ××:××)

1号機	2号機	3号機	4号機	廃棄物処理棟 排気筒	風向	風速
2.3	3.5	3.2	4.5	2.1	-	CALM

※風速0.5m/s未満の場合「CALM」(静穏)、風向を「-」と表記。

※排気筒における風向・風速の観測については、常用より正確に観測できない場合があります。

お知らせ

お知らせ欄

○排気筒について

排気筒は、発電所の建物内の空気や排水等を真空にしておためし引いた排ガスを一元的に放出するための設備です。排気筒からは、普通の煙突とは違い、発電所の建物の中で使った空気が出て来ず、排気される空気中には、微量の放射性物質が含まれているため、活性炭式希ガスホールドアップ装置やフィルタなどの設備によって環境へ影響を小さくしています。

○排気筒モニタについて

排気筒モニタは、発電所から環境へ放出される排気中の放射線を測定する装置です。

○測定単位: cps(count per second) について

1cpsとは、放射線測定器で1秒間に1個放射線を測定したことをいいます。

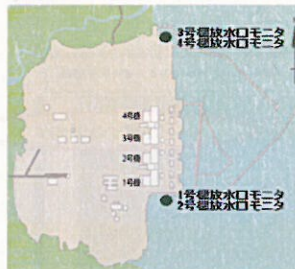


転載禁止 東京電力株式会社

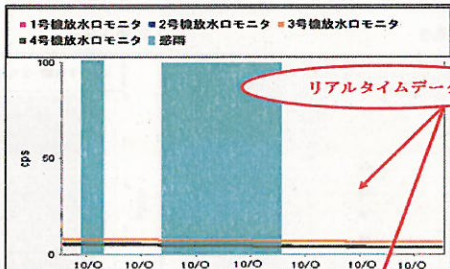
福島第二原子力発電所構内での放水口モニタ計測状況

福島第二原子力発電所構内の放水口モニタにおいて測定している、放水口から放出される液体の放射線量の測定結果をお知らせいたします。

計測地点



計測グラフ



拡大して表示する

拡大して表示する

○計測値(2012/0/0 ××:××)

設備の不具合・調整等により、データが表示されない時間帯が発生しています。

1号機	2号機	3号機	4号機	感雨
-	-	7.5	7.2	有

○お知らせ

○1・2号機放水口モニタは、東北地方太平洋沖地震の影響を受け、現在復旧作業中です。当該モニタの復旧が完了し、準備が整った際、公開する予定です。

○放水口について

放水口は、原子炉で発生する蒸気を冷やして水に戻すための冷却水(海水)や、洗滌廃液、シャワー廃液、プラント余剰水といった液体廃棄物の他、発電所構内の雨水などが放出される場所です。

○放水口モニタについて

放水口モニタは、発電所の各放水口にそれぞれ設置して、放水口から放出される液体の放射線を測定する装置です。放水口モニタの測定値は降雨の影響により変動します。

○測定単位:cps(count per second)について

1cpsとは、放射線測定器で1秒間に1個放射線を測定したことを指します。

